

研修報告「平成23年度 新任保育士・職員研修会」

期 日 平成23年5月20日（金）

会 場 佐賀市産業振興会館 大会議室

主 催 佐賀県保育会

参加者数 100名

研修内容

研修1 「基調報告」

講師 佐賀県保育会会長 田中豊博 氏

研修2 「これからの実践と自己研鑽」

講師 九州龍谷短期大学学長 貞松征夫 氏

日程 9：30 受付

10：00 開会
全国保育士会倫理綱領朗読

研修1

10：30

研修2

12：00 昼食

13：00 研修2一②

16：00 閉会

開会

会長挨拶 田中豊博

今日本は東日本大震災で大変な時期である。佐賀県保育会で義援金として336万円、全国で2億4千万円集まっているが3県に分配の予定である。

今回の参加者で5割は新採であるが今年の夏は節電で30℃までは我慢してもらいたいと思う。体を慣らすことが大切だと考えている。

研修1

あの震災において園舎に残っていた園児がだれ一人として犠牲にならなかったということは奇跡的である。いかに日頃から訓練がなされていたか、また絶対助けるという保育士の心構えが強く表れていたかと思う。何もかも流されている状況でも保育がなされている。今まで積み重ねてきた経験が活かされているのだろう。みなさんもプロであるという意識を強く持ち早く園の人財（人材ではなく）になってもらいたい。

保育制度について

幼稚園、保育園の一体化、給付に一体化、機能に一体化、多様な事業主体の参入により保育の質の低下が懸念されそれが子ども達に跳ね返る可能性がある。制度改革に反対運動はしているが今後の動向に注意が必要である。皆さんも関心を持って新聞など見てほしい。今日の研修を意義あるものにしてもらいたい。

保育団体組織として佐賀県保育会、日本保育協会、全国私立保育連盟があるが佐賀県は主に佐賀県保育会及び日本保育協会に属している。

研修2

これからの実践と自己研鑽 貞松征夫

現在子どもを取り巻く環境は社会の多様化、情報化、少子化などで厳しさが増している。昔は子育ての要素が家庭、地域にあったが今は望めなくなっている。保育園が家庭や地域に変わり基礎を築く場所として期待されている。

保育とは養育と教育を合わせて保育と言う。子ども一人一人を大切に自分がよいと思ったら実践してもらいたい。記録は記憶に優る。大切な事はメモしておくこと、また報告、連絡、相談は早し良し。ちょうど良し、危うし。遅し、悪し。を念頭に置いてもらいたい。給料がもらえるのは子どもがいるから。「あなたがいるから、私がいる。」と思ってほしい。自分の保育理念を持ち人から学ぶ、活字から学ぶ、旅から学ぶ（異文化に触れ国際的感覚を持つ）と言う意識を持って自分を磨いてもらいたいと思う。

躰は臨界期（九つ）までにする必要がある。それまでに保育室で徹底したいことは①目を見てうなずいて聞く②聞いて考える③考えてやってみる④やってみて振り返る

これは学びの中心は聞く態度からという考えからである。

(今しなければいけないこと) アメリカのロバート・フルガムは「大切なものは砂場から学んだ」と言っている。それは①何でもみんなに分け合うこと。②ズルをしないこと。③人をぶたないこと。④使ったものは必ず元に戻すこと。⑤誰かを傷つけたら「ごめんなさい」と言うこと。⑥食事の前には手を洗うこと。⑦毎日少し勉強し、少し考え、少し絵を描き、歌い、踊り、遊びそして働くこと。

(四つの「める」と三つの「づく」) 保育をするにあたって気に留めておきたいこと。

「める」とは①みつめる。②たしかめる。③誉める。④みとめる。

「づく」とは①気づく。②うなづく。③つづく。

保育の目的①意欲②心情③態度を達成するために内容の5領域①健康②人間関係③環境④言葉⑤表現がある。遊びを通してこれらを総合的に学ぶ必要がある。歌をうたうこと一つをとってもすべての要素が入っている。また保育内容を達成するには3K すなわち工夫、苦労、協力が必要である。子どもが関心を持つような保育をしなければならない。子どもの成長にとって五感(視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚)を刺激することが大切である。大人も子どもも間違った時が成長する時でもあるので間違いを恐れてはいけない。×は45度左右に動かせば+になる。

皆さんの給料は税金で賄われるようになっているので、公開の義務が出てくる。その時、指導案や保育要録の提出が必要となるのでしっかり勉強してもらいたい。

(セルトニンと元気の関係)

最近、キレる子どもが社会問題となっているが、その原因は一種の生活習慣病(柔らかい食事、長時間のゲーム、夜型生活)と考えている。セルトニン神経は脳全体に情報を送る役目をしていて、セルトニンの活動次第で心身が元気にも不調にもなる。また、痛みを抑える鎮痛効果や心を安定させ感情をコントロールして平常心を保つ働きもある。この神経は「リズム運動」で活性化するという特徴があるのでいったん弱っても鍛え直せるので保育の中に一定の間隔で同じ動作を繰り返すリズム運動を取り入れてもらいたいと思っている

効果及び講評

厳しい言葉の中にもユーモアと慈しみが感じられる研修であった。具体的な目的、内容などの資料もあり新任の保育士にとっては参考になったと思う。今日の貞松先生の話聞いて、途中で挫折することなく保育士としての仕事に誇りと自信、意欲をもって取り組んでもらいたいと思う。

文責 三里保育園 千々和恵子